神奈川県

はじめよう
学習活動研究会

～主体的に学ぶ生徒をはぐくむために～

神奈川県立総合教育センター

平成 27 年３月

はじめに

この冊子は、平成 25･26 年度調査研究「学校全体で取り組む学習支援の充実に関する研究」より、主体的に学ぶ生徒をはぐくむ授業づくりのヒントや、『学習活動研究会』のポイントをまとめたヒント集です。

「試験のために一時的に覚えては、すぐに忘れてしまうような学習を繰り返している生徒」「板書を丁寧に写して綺麗なノートを作ることを学習と捉えている生徒」「与えられる知識だけを吸収し、自分からは探究しない生徒」「自分が指名された時にだけ考え、他の生徒が問われている時には学びに参加していない生徒」「分からないことを分からないままにしながら過ごしている生徒」、このような、教室にいながら学習活動に参加できない、もしくは受け身的な参加にとどまっている多くの生徒は、やる気がないのではなく、困っているのかもしれません。

教室には多様な生徒がいます。そこには一人ひとりの学び方や、それぞれの学習スタイルがあります。そして、生徒を自立した学習者に育てるためには、授業が「生徒が主体的に学ぶ場（考え、理解し、表現する場）」となることが望まれます。しかし、授業の充実は、個々の教員が一人で取り組むだけでは限界があるのではないでしょうか。生徒の行動上の問題に対して、教員が教科や学年を越えてチームで対応するように、授業の充実にも学校全体で取り組むことが求められています。

主体的に学ぶ生徒をはぐくむためには、従来のような、授業技術に主眼をおいた教える側の視点からの授業研究ではなく、学ぶ側に視点を移した「生徒の姿から学ぶ授業研究」を学校全体で積み重ねることが有効だと考えられます。『学習活動研究会』では、生徒の学習活動を吟味し、学習している生徒の姿から、授業の在り方や教員のかかわり方、教材や発問の工夫など、具体的な学習支援の方法を検討します。『学習活動研究会』において、教える側から学ぶ側に視点を移し、生徒の学びの状況や学び方の特徴を見て取り、生徒が主体的に学ぶための手立てについて教科を越えて検討することは、生徒の多様な学びを支えることにつながります。

授業の充実を図り、主体的に学ぶ生徒をはぐくむために、皆さんの学校でも学校全体で取り組む『学習活動研究会』をはじめてみませんか？

目 次

はじめに

1　授業の充実に向けた取組のサイクル　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2ページ

多角的・多面的な ＜指導案の検討＞　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4ページ

手立てを工夫した ＜授業の実践＞　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5ページ

学校全体で取り組む ≪学習活動研究会≫　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6ページ

【コラム】 調査研究協力校の先生方のつぶやき　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8ページ

2　主体的に学ぶ生徒をはぐくむ授業づくりのヒント　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9ページ

3　調査研究協力校の実践より ～学習活動研究会における協議～　・・・・・・　15ページ

学習活動研究会①　数学Ⅰ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　16ページ

学習活動研究会②　現代文　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　18ページ

学習活動研究会③　日本史　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　19ページ

学習活動研究会④　コミュニケーション英語Ⅰ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　20ページ

学習活動研究会⑤　現代社会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　22ページ

学習活動研究会⑥　物理基礎　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　24ページ

１　授業の充実に向けた取組のサイクル

はぐくみたい生徒像
「めざす姿」の共有

主体的に学ぶ生徒をはぐくむために、「生徒にどう学んでほしいのか」「主体的に学ぶとは具体的にどのような姿なのか」を検討し、全職員が共有する。

「生徒が主体的に学ぶ授業」の充実に向けた取組のサイクル

指導案の検討・授業の実践・学習活動研究会というサイクルに学校全体で取り組み、学習活動研究会における協議を日々の実践にいかす。

多角的・多面的な ＜指導案の検討＞

学びのユニバーサルデザインの視点から
- 教科を越えて検討する
- 教科として検討する

手立てを工夫した ＜授業の実践＞

- 展開の構造化
- 多様な感覚を用いる活動の設定
- 協同的な学びの場の設定　など

学校全体で取り組む ≪学習活動研究会≫

- ビデオ記録から生徒の学びの様子を見て取る
- グループ協議①「生徒の学びについて気づいたこと」「工夫した手立ての成果や課題」等
- 全体共有
- グループ協議②「自分の授業にいかせる工夫」

生徒の姿から学ぶ

多角的・多面的な ＜指導案の検討＞

教科を越えて検討する

・・・教科特性によらない素朴な疑問から本質に迫る

教科特性によらない視点からの素朴な疑問によって、課題を明確にしたり、他教科の授業における生徒の様子から多様なアプローチの手段を検討したり、模擬授業を行い、生徒の立場に立って改めて授業を見直したりするなど、教える側から学ぶ側に視点を移して、学年や教科を越えて多角的・多面的に指導案を検討することで、授業の充実を図っていきます。

〇多くの生徒に分かりやすい授業展開の工夫（スモールステップ化、構造化など）について

・目標は明確か
・スモールステップで進んでいるか
・メリハリのある授業構成になっているか
・授業展開は構造化されているか（目標達成に向けた論理的かつ効果的な組み立てになっているか）

〇生徒が思考を深めるための発問の工夫について

・生徒が思考し、探究するための発問になっているか
・分かる生徒だけに合わせていないか
・つまずいている生徒への補助発問は準備されているか

〇生徒同士が学び合うための課題設定について

・協同的な学びが深まるような、やや難しい課題となっているか（課題が簡単過ぎないか）
・思考し、探究する課題になっているか（課題が単なる作業になっていないか）

教科として検討する

・・・教科を越えた検討を受けて、改めて目標や手立てを確認する

〇教科として単元（題材）や本時の目標を押さえ直す

・教科特性によらない多様な視点から出された意見を受けて、「目標は明確であるか、妥当であるか」を改めて検討し、必要に応じて修正する。

〇理解を深めるための「視覚化」「体験的な学び」「共有化」のための手立てについて確認する

・理解を深めるための「視覚化」や「体験的な学び」を工夫する。
・より学びを深めるための「共有化」の効果的な手立てについて確認する。

【ポイント】

◆ 学年会や教科会など、既存の会議を活用する
◆「授業づくりチェックシート」などのツールを活用する
◆「学びのユニバーサルデザイン」の視点で考える
◆ どんな意見も否定せず、たくさんのアイデアを出し合う

（例）

授業づくりチェックシート

□本時のねらいは明確か
□メリハリのある授業構成になっているか
□生徒の学びが OFF になる時間はないか
□板書は工夫されているか
□生徒が考えるための発問になっているか
□協同的に学ぶ場面は設定されているか

手立てを工夫した ＜授業の実践＞

調査研究協力校の実践より

○「本時の目標」を授業の最初に提示し、授業の間、提示し続ける。（見通し）

- 「本時の目標」をマグネットシートに書いて、授業の間、黒板の端に貼っておくことで、生徒が目標を意識しながら取り組む様子が見られました。
- たったこれだけの工夫でも、目標が明確になり、生徒が見通しを持って主体的に取り組む手助けになっていると感じました。
- 教師としても、本時のゴールが常に目に入ることによって、生徒に達成させたい目標からぶれることなく授業を行うことができました。

○「見る」「聞く」「話す」「書く」「体験する」など、多様な感覚を用いる活動を意識的に取り入れる。（多様な提示方法・参加方法・表現方法の提供、認知特性への配慮）

○生徒が集中を維持しやすいように、短時間の活動をいくつも組み合わせて授業を構成する。（展開の構造化）

- 教師の説明を聞いたり見たりしている時よりも、生徒自身が実際に教材を動かしたり、話し合いをしたりするなどの体験的な活動の時の方が、あきらかに生徒の集中力は高まり、いきいきとした明るい表情で取り組んでいました。聞くだけ、見るだけよりも、体験したことは忘れないのだろうと思います。
- 生徒が自分の得意な感覚をいかして学べるように、「視覚」「聴覚」「運動感覚」を意識して、多様な感覚を用いる活動を用意していきたいと思います。

○ペアワークやグループワーク等を取り入れて、学びが OFF になってしまう時間が少なくなるようにし、できるだけ全員が一斉に活動できるようにする。（同時性・協同的な学び）

- グループワークを行うと、関係のないお喋りでうるさくなってしまったり、一部の生徒に課題を任せてしまってグループ全員の活動にならなかったり、時間がかかって授業の進度が遅くなったりするのではないかと思っていましたが、意外に生徒は前向きに取り組み、しっかり意見交換できて深い学びになっていました。
- 自分が当てられた時にだけ考える受け身的な生徒が多かったのですが、ペアワークを取り入れることで、どの問いにも全員が取り組んでいました。

○授業の最後に、どこまで理解できたか学びの状況を確認する。
（生徒：自身のモニタリング、 教師：次の授業にいかす形成的評価）

- 授業の最後に小テストを実施して、採点までを時間内に行うと、生徒自身がこの授業で何を学んだか（自分はどこまで理解し、どこから理解できていないのか）が分かるので、より主体的に学べると感じました。
- 振り返りシートなどの活用によって、教師にとっても、この時間の、この指導法で、生徒がどこまで理解し、どこにつまずいているのかを把握できるので、次の授業で確認することや進め方を修正したり、教材や発問を工夫したりするのに役立ちました。

学校全体で取り組む ≪学習活動研究会≫

主体的に学ぶ生徒をはぐくむためには、従来のような「授業技術に主眼をおいた教える側の視点からの授業研究」ではなく、学ぶ側に視点を移した「生徒の姿から学ぶ授業研究」に学校全体で組織的に取り組むことが有効です。

教室には多様な生徒がいます。そこには一人ひとりの学び方や、それぞれの学習スタイル（認知特性）があります。すべての生徒が主体的に学びに参加するためには、授業が「生徒が考え、理解し、表現する場」となることが望まれます。しかし、授業の充実は、個々の教員が一人で取り組むだけでは限界があるのではないでしょうか。

学校全体で取り組む学習活動研究会では、生徒の学習活動を吟味し、学習している生徒の姿から、授業の在り方や教員のかかわり方、教材や発問の工夫など、具体的な学習支援の方法を検討します。生徒の「学びの状況」や「学び方の特徴」を見て取り、生徒が主体的に学ぶための手立てについて検討することは、生徒の多様な学びを支えることにつながります。

「生徒の姿から学ぶ」　これがキーワードですね！

多様な生徒の多様な学びを支える多様な手立てについて、授業のプロである教員も互いに学び合い、探究していきたいですね。

学習活動研究会の流れ（例）

〇授業者より
- 単元やねらいの説明
- 検討課題（工夫した手立て）の提案

〇授業のビデオ記録を見る
- 検討課題に挙がった場面をビデオ記録により丁寧に見直し、生徒の「学びの状況」や「学び方の特徴」を見て取る。
  （どのように学んでいたか、どこまで理解したか、どこでつまずいているか等）

〇グループ協議①
- 「生徒の学び」について、一人ひとりが気づいたことをグループで共有する。
- 工夫した手立ての成果や課題、次の授業に向けた更なる手立てを検討する。

〇協議された内容を全体で共有する
- 各グループの気づきを全員で共有し、学び合う。

〇グループ協議②
- 「自分の授業にいかせる工夫」について話し合う。

学習活動研究会の持ち方の工夫

〇事前に、研究会の目的や意義、めざす姿（はぐくみたい生徒像）を全職員で共有する

〇授業研究を推進するチームが、学習活動研究会をファシリテートする

〇協議を活性化させるための工夫

・グループのメンバー構成に配慮する。

例　：　１グループは４～５名にし、向かい合った座席にして机をつける
対象クラスの授業を担当している教員が各グループに入る
教科や学年が偏らないメンバー構成にする
経験年数が偏らないメンバー構成にする

・指導案や対象クラスの座席表を見ながら協議する。

・話合いの可視化のためにワークシートや付箋を用意し、焦点化や共有化を図る。

〇できるだけ多くの教員が直接授業を観察する

・ビデオ記録では分からない生徒の発言やその場の雰囲気を感じ取る。

〇ビデオは教室前方から撮る（教える側から学ぶ側に視点を移す）

・「この生徒は、今、何を考えているのだろう」「この生徒はどこまで理解し、どこでつまずいているのだろう」「この生徒の学び方の特徴は何だろう」という視点で、一人ひとりの生徒の様子を丁寧に見て取り、課題設定や手立ての工夫にいかす。

【コラム】　調査研究協力校の先生方のつぶやき

＜指導案の検討について＞

＊教科を越えて検討することに、初めはとまどい、意見も言いにくかったが、思わぬ意見やアイデアが出されるなど、自分とは異なる視点が加わることで視野が広がった。

＊他教科の教員の視点は生徒の視点に近い場合があり、その視点をいかして検討することで、「生徒に何を学ばせたいのか」などについて改めて考えることができ、課題設定が明確になった。

＜学習活動研究会について＞

＊自分の授業以外での生徒の様子を見られたことが新鮮だった。教科によって様子が違った。

＊ビデオ記録で改めて生徒の様子を見たら、「何の問題もなく解いているように見えていた生徒が、実はまったく分かっていなかった」ことが分かって驚きだった。多くの目で授業を振り返る大切さを感じた。

＊生徒同士が意見をやりとりしたり、一人の生徒のつぶやきを教師が拾って、クラス全体に共有したりすることで、個々の考えがより深まることが分かった。

＊授業中には見過ごしがちな生徒のサインやつぶやきに、協議によって気づくことができた。

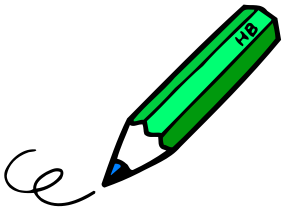
＜プロジェクトチーム（授業研究の推進役）より＞

＊年度当初に全職員で目的を確認して、共通認識のもとにスタートしたのが良かった。

＊話し合いを重ねながら手探りで進めてきた。研究会の持ち方について検討したり、学びのユニバーサルデザインや協同的な学びをどう捉えるかなどについて話し合う中で、何でも言い合えるチームになり、思ったことを言い合える推進チームの話し合いが楽しくなっていった。

＊推進チームの雰囲気が学校全体にも伝わっていったと感じる。研究会の回数を重ねる中で、お互いに学び合う風土が、学校全体に少しずつ広がってきたと感じている。

２　主体的に学ぶ生徒をはぐくむ授業づくりのヒント



主体的に学ぶ生徒をはぐくむ
授業づくりのヒント

教える側から学ぶ側に視点を移し
一人ひとりの生徒の学びの状況を見て取る
「生徒の姿から学ぶ授業づくり」

生徒の実態（どのように学んでいるか）を授業のスタートにする

○「生徒の姿から学ぶ」姿勢を忘れない。
・うまくいかない時、その原因が指導法にある可能性を考えて、指導や支援を工夫する。

○言葉には出さなくても、「一人ひとりの生徒の姿（授業への参加の仕方）」が、教員にメッセージを伝えている。
・一見、消極的な参加に見える生徒も、いろいろと感じ、気づき、考えている。
・「この生徒は、今、何を考えて（思考し、探究して）いるのだろう」「この生徒はどこまで理解し、どこでつまずいているのだろう」「この生徒の学び方の特徴は何だろう」という視点で一人ひとりの生徒を見て、授業を組み立てていく。

生徒一人ひとりの学びを保障する

○伝えたいこと学ばせたいことを、「どう学ばせるか」という視点で授業をデザインし、生徒が学ぶ環境をつくる。
・ただ伝えるのではなく、生徒が主体的に学び、理解の深化が図られる授業を構築する。

○「自分の知らなかった世界に出会う驚き、知る喜び」といった、学びの本質を授業の中で大事にしいてく。
・「そういうことだったのか！」という納得の声を生徒から引き出す。

○見通しを持ちやすい授業展開にする。
・具体的な目標の提示（見通し）
・授業の流れを明確にする（展開の構造化：目標達成に向けた論理的かつ効果的な組み立て）

➡ **・「見通しを持つ」ことは、生徒の主体的な参加を促進させ、集中の維持や統合的な理解にもつながる。**

〇できるだけ多くの生徒に届く授業を行う。

・「多様な提示方法」「多様な手段による活動への参加」「多様な表現方法」を提供する。

学びのユニバーサルデザイン
【前提】 クラスには様々な学習者がいる
【原則】 多様な提示方法
多様な手段による活動への参加
多様な表現方法

〇様々な学習スタイル（認知特性）に応じた指導を行う。

・「視覚」「聴覚」「運動感覚」を意識し、１時間の中に多様な感覚を用いた活動を取り入れる。
１時間の中に取り入れにくい場合は、単元の中で取り入れていく。

➡ **・様々な感覚機能を使う活動を組み合わせることで、集中を維持しやすく、統合的な理解も図られやすくなる。**

・一人ひとりの学習スタイルを把握し、机間指導の際にいかす。
（個々の生徒の得意な認知様式に応じた補助説明や解き方のヒントなどでサポートする）

・体験して学ぶ時間を取り入れる。

➡ **・体験を通して、学ぶ楽しさや面白さに気づく。**
・体験することで、より納得しやすく、深く学べる。
・聞いただけの知識は忘れやすいが、体験を通して理解した知識は習得度が高く、活用できる真の知識になりやすい。

〇今、何を学んでいるのかを明確にする。

・主体的に学ぶには「自分はここまでは分かった。しかし、ここからが分からない」と、生徒が自分自身を知り、現状を確認することが必要である。（モニタリング）

・そのためには、目標や課題が明確であることや、生徒に自分の学びの状況を確認させる発問が大切になる。

・授業が分からないまま終わってしまわないよう、授業の途中で、生徒が「分からない」と言える風土をつくる。

・「分からない」と言う声を大事に受け止め、それに対して、教師が教えるのではなく、生徒同士が教え合う場をつくると、さらに学びが深まる。

➡ **・教わることで理解し、教えることで、より深く理解する。**
・生徒同士をつなげ、生徒の力を使うことで、双方の学びが深まる。

○協同的な学びを大事にする。

・学びが OFF になる時間を作らない。一人を指名すると、その生徒だけが ON になって考え、他の多くの生徒は OFF になりやすく、指名された生徒も答え終わると OFF になりやすい。

・グループワーク等「協同的な学び」を取り入れることによって全員が活動できる。(同時性)

・一人では気づけないことにも、グループで取り組むことによって気づけることが増える。

・個々の気づきを共有することで、生徒同士が学び合い、多様な考え方や学び方があることに気づくことができる。(互恵的な学び)

・教師が一人ですべてに対応するのではなく、生徒同士の力を使う。

➡ **・多様な意見を知ることで本質により近づきやすくなる。**
・多様な考え方や学び方があることに生徒自身が気づくことによって、自分の考え方や学び方が広がったり深まったりする。

・学びの成果や課題を振り返ることを大切にする。
「自分の意見を言えたか」「意見が違った時にどう乗り越えたのか」「他者の意見を聞いて、自分の意見が変わったか」等、内省する時間を持つことが次の学びにつながる。

・友だちの姿が鏡になり、モニタリングが促進される。

・グループの構成員が多いと主体的な参加になりにくい。
４名ほどのバランスの良いメンバー構成が効果的な学び合いを実現させる。

・どうペアを作るのか、どうグループを作るのか、何に取り組むのか、ゴールは何なのか等、行動の指針は具体的に示す。

・良く学べているグループの状況を全体にフィードバックして模範を示したり、学びが停滞しているグループには考えるための補助発問をしたり、生徒の発言を教師が拾って他の生徒につなげたりするなど、教師の適切なかかわりが必要である。(生徒の協同技能を育てる)

学び合いを促進する働きかけの例

・「(先生にではなく) 隣の人に聞いてごらん？」
・「どういう意味か隣の人に説明してみよう」
「隣の人は、今聞いた説明とは別の表現でもう一度説明してみよう」
・「隣同士で／グループの中で、疑問や感想を交流してすっきりしよう」
・「周りの人と相談して、もっと良い考えにしよう」
「みんなの考えを摺り合わせてみよう」
「今、出されたいくつかの意見を合わせて考えるとどうなると思う？」
・「自分の意見がどう変わったのかを発表しよう」
・「一緒に学んで良かったことを一つずつ言ってみよう」
・「ここまでで学んだことをグループ内で話し合おう」

○「生徒が考え、生徒が達成する」ことを大切にする。

・発問を吟味する。（何について考えると良いのか分かる発問になっているか）

・問いかけたら、答えるまで待つ。

・答えを出すためのヒントではなく、考えるためのヒント（補助発問）を与える。

・教師にとって、沈黙は怖いものだが、生徒は沈黙の間に思考し、そこから学びが生まれる。この時間を十分に保障する。

・「浅い処理（聞いたまま言う、見たまま書くなど）」ではなく、「深い処理（系列化、概念化、統合など）」をさせる。

○目的と手段を混同しない。

・ノートに書くことは手段であって目的ではない。書くことによって思考し、理解し、覚えることが重要である。

・きれいなノートを作って満足するのではなく、「今日はこれを学んだ」という実感を得られることを大事にする。

・「これを学んだ」という実感を得ることがすぐに忘れてしまう知識ではなく、次の学びにつながる本質的な学びになる。

・ペアワークやグループワークを単なる作業にとどまらせずに「探究する時間」を十分にとる。

・グループワークを行うことが目的ではない。学び合い、かかわり合いながら集団で思考することによって、「新たな気づきを得ながら、個人の思考が深まる」ことが大切である。

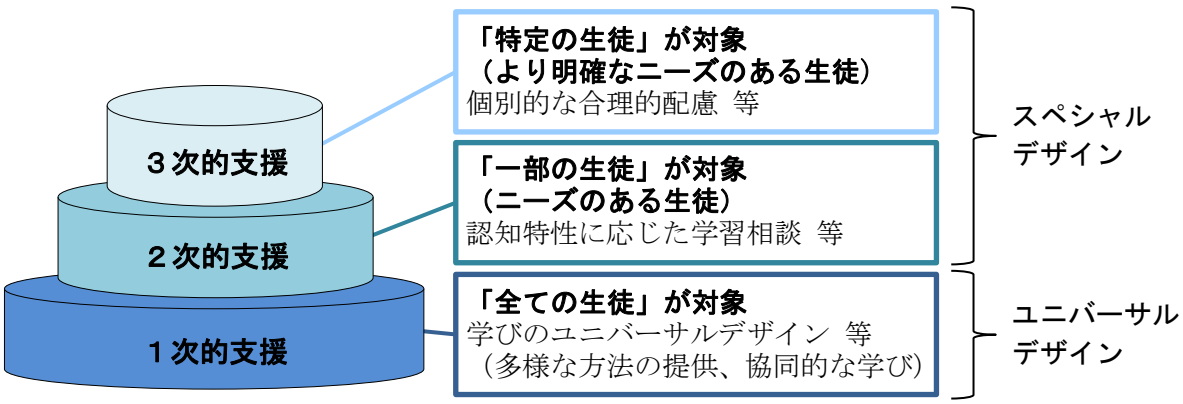
・一人では簡単に解けない課題に、他者とのかかわりを通して向かい合うことによって、探究的思考は深まる。

学習支援の３つの段階

・生徒のニーズや学習スタイルを把握し、それらに応じた学習環境や効果的な学習支援を検討するにあたっては、このような３つの段階が考えられます。

・２次的支援、３次的支援はスペシャルデザインであり、その土台となるのは、全ての生徒を対象とした１次的支援です。

・主体的に学ぶ生徒をはぐくむためには、まずは、学びのユニバーサルデザインの視点から１次的支援の充実を図り、その上で、必要な生徒には２次的支援、３次的支援を行います。



３　調査研究協力校の実践より

～学習活動研究会における協議～

学習活動研究会①　数学Ⅰ

【単元（題材）】２次方程式と２次不等式

【授業の流れ】

・前時の内容の確認：２次関数のグラフとｘ軸の共有点が１個及び０個の場合の２次不等式の解の表し方

・２次不等式を解く：２次関数のグラフとｘ軸の位置関係に注目させ、共有点の個数及び不等号による解の表し方の違いを理解する。
グラフを描き、解を読み取る演習プリントを進める。

・確認小テスト

《工夫した手立て》

・本時の目標をマグネットシートで掲示した。

・手に取って動かせる教材を活用した。（２次関数のグラフが描かれた透明フィルム等）

・授業の最後に小テストを行い、学びの状況を確認した。

○生徒の学びについて

手に取れるグラフが良かったです。黒板の所に出てきて答えていた生徒も、グラフを動かす中で、自分で間違いに気づけていました。

自分で動かすことで、納得度が違うと感じました。あれを全員が使えるとさらに良いですね。小さな教材をいくつか用意して、グループに１つずつ渡してみるのはどうでしょう。

「解なし」という解答に、「え、そんなのあるの？」「知らなかった！」と驚いてつぶやいている生徒が何人もいました。これぞ知る喜びだと思います。

本当にその通りですね。授業ではこういう場面を大切にしたいですね。その後、なぜ「解なし」になるのかを、教師が説明してしまわずに、生徒に考えさせても良かったですね。

それぞれに考えさせたり、隣と話し合わせたりしたら面白かったかもしれませんね。教師の発問に対してなかなか答えが返ってこない場面もありましたが、発問した後に、生徒が答えるまで教師がしっかり待っていたら、生徒は安心して考えて答えていました。じっくり時間をかけて考える力があるのだと思います。

一見、問題を解いているように見えた生徒が、よく見ていたら、書いては消してを繰り返していて、結局自分では解いていませんでした。説明もしっかり聞いているように見えましたが、分かっていなかったのだと思います。

最後は、他の生徒が黒板に書いた答えを写していましたね。本人が、途中で「分からない」と言えたら、そこから、この生徒の学びが始まるかもしれません。

そのためには、「分からないことは恥ずかいことではない」というベースが必要だと感じます。普段から「分からない」「困っている」と言い合える風土づくりを大切にしていきたいですね。

そうですね。誰かが「分からない」と言うことによって、疑問が共有されたり、解決されたりして、助かる生徒が他にもいると思います。

それでも、「分からない」と言えない生徒もいると思うので、そういう生徒にもしっかり気づけるように、教師もアンテナを張っていないといけないですね。

○目標の提示（見通し）

授業の最初に「本時の目標」をマグネットシートで提示し、授業の間、ずっと黒板に貼っておいたのが、分かりやすくて良かったと思います。

それによって本時のゴールが明確になったし、何をめざして取り組んでいるのかを、生徒自身が理解して授業に参加できていましたね。

○小テストによる確認（学習者の自己評価・授業者の形成的評価）

授業の最後に行った確認の小テストは、教師が採点して次の時間に返すだけでは、少しもったいないと感じます。授業中に、生徒が自分で採点しても良かったように思いました。

たしかに、この時間の中で生徒が自分で採点したり、隣同士で採点し合ったりできると、生徒自身が「自分はどこまで理解して、どこから理解できていないのか」をハッキリ分かって良いかもしれませんね。

そうすると、「今日のこの授業で、どの生徒がどこまで理解できたのか、どの生徒がどこにつまずいているのか」を教師もより把握できるので、次の授業の組み立てにいかしやすいし、机間指導で個別に配慮できますね。

学習活動研究会②　現代文

【単元（題材）】評論「目に見える制度と見えない制度」

【授業の流れ】

・漢字テスト

・「制度とはどういうものか」「制度という言葉からイメージするもの」「あって良かったと思う制度」「なくなれば良いと思う制度」について、それぞれの意見をクラス全体で共有する。

・「高校に校則があるのはなぜか」「本校に校則がなかったらどのような状況になるか」について、それぞれの意見をクラス全体で共有し、自分の考えをさらに深める。

《工夫した手立て》

・身近なこととして考えられるよう、段階を追って発問した。

・全員の意見をプリントにまとめて配付し、自己の考えと他者の考えの比較をしながら、自己の考えを深められるようにした。

○生徒の学びについて

社会の法律を本校の校則におきかえたことで、生徒が自分のこととして真剣に考えていたと思います。身近な話題なので意見を出しやすくなったのでしょう。

自分の発言が取り上げられて板書された時に、とても嬉しそうでした。また、全員の意見がまとめられたプリントを生徒はよく見ていました。前時に書いた意見が本時にいきるので、生徒もやりがいをもって取り組めたと思います。

黒板やプリントに、自分や友だちの意見が視覚的に残っていくのが良かったのだと感じます。それぞれが考えを深めるのに役立っていたと思いました。

それぞれの生徒の意見をたくさん発表させていくだけではなく、その意見に対する異義や同義を問う発問をして生徒同士をつなげていくと、意見がさらに広がったり深まったりしそうですね。

友だちの意見を聞いて自分の意見がどう変わったのかなど、それぞれが内省できるとさらに良いですね。

そういった、自分の気持ちや意見の変化についてもグループで共有できると、学びがより深まると思います。

学習活動研究会③　日本史

【単元（題材）】国際環境の変化と明治維新　雄藩の台頭

【授業の流れ】

・幕末に活躍する雄藩について確認する。
・江戸時代の人口推移について知る。
・統計表から雄藩と対比される藩の人口推移のグラフを作成する。
・作成したグラフから人口推移を比較し、「なぜ人口に変化が生じたか」を考察する。
・人口増と藩の力の関係を確認する。

《工夫した手立て》

・統計を読み解くという一人で取り組むにはやや難しい課題をグループ活動の課題として設定した。
・人口に変化が生じる原因となる要素を例示して考察を促した。
・話し合いが活発になるよう４人組のグループにした。

○生徒の学びについて

課題を見て戸惑っていた生徒が、一人ではなくグループで取り組むことが分かると安心したような笑顔を見せていました。実際にグループになってからは、周りに疑問をなげかけるなどしながら積極的に取り組んでいましたね。

講義形式からグループ活動になった途端に、クラス全体が良い意味で活気づきましたね。グループで助け合うことで、難しい課題に全員が取り組めたと感じました。

統計表からグラフを作成するのが案外難しく、また量もあったので、グラフ作成という作業に終始してしまって、考察にまで進めないグループがいくつかあったのがもったいなかったですね。

探求する時間を十分にとるためには、統計表と共にグラフまで配ってしまうやり方もありますね。時間をかけて、生徒がしっかり考察できると良かったと思います。

リードする生徒がいるグループは考察にまで進んでいました。より良い学び合いを実現させるには、生徒任せにするのではなく、メンバー構成や時間枠の設定、課題の難易度や量、補助資料などの工夫が必要ですね。

うまく進んでいないグループには、教師の介入が必要だと思います。取組を促すような発問をすることで、学び合う雰囲気をつくれると思います。

学習活動研究会④　コミュニケーション英語Ⅰ

【単元（題材）】 Pictures of Funny Moments

【授業の流れ】

・ウォーミングアップ：ペアになって説明クイズを出し合う。
・文法練習
・内容真偽問題（ペアワーク）：教科書本文の内容について True or False を答える。
・会話文の作成（グループワーク）：ワークシートを用いた英作文

《工夫した手立て》

・ペアワークにおいても、音読のような単純な活動ではなく、考えさせる課題を設定した。また、プリントを二人に１枚配ることで、より協力して取り組めるようにした。
・やや難しい英作文をグループで取り組む課題として設定した。自由度が上がりすぎないよう、ワークシートを活用するなどして難易度を調整した。
・評価規準を黒板に示して、到達目標を明確にした。

○生徒の学びについて

参加型の授業だったので、生徒がお客さんにならずに、主体的によく取り組んでいました。こういう授業は、やはり生徒の表情が明るいし、達成感も持ちやすくて良いですね。

ペアワークの時に、資料を二人に１枚しか配らないことで、一つの資料を二人でのぞき込みながら取り組むなど、連帯感が生まれやすくなる工夫があって良かったです。生徒が主体的に課題に向かい合えていました。

前半はほとんどノートも取らず、授業に積極的に参加しているとは言えなかった生徒が、ペアワークになったら、ペアの生徒に助けられて徐々に課題に取り組んでいました。板書を写しながら文法を学ぶ場面とは、明らかに表情が違っていて、ペアワークによって学べたと言えると思います。

ペアワークの時に、教える側と教わる側というように、生徒同士の関係性が固定されてしまいやすいですね。どうしたら互恵的になるでしょうか……。

教えることで自分の理解もより深まります。教わる側だけでなく、教える側にも学びがあると思います。これも、お互いに学び合う一つの形ではないでしょうか。教える側にも学びがあることを、生徒にもしっかり伝えていきたいですね。

○学び合いを促進するための工夫について

ペアワークの時に、教師に質問をしている生徒が何人もいました。これは、ペアではなくてグループにすれば、お互いに聞き合って生徒同士で解決できたかもしれないと感じました。

ペアワークには限界がありますよね。お互いの能力や相性などにも左右されて、煮つまってしまうペアが出てくることがあります。

課題によってペアを変えていくといった工夫もできますね。隣同士だけではなくて、前後で組んだり自由な組み合わせにしたりといろいろできると思います。

組み合わせだけではなくて、人数的な限界もあると思います。今回の授業でもペアを越えて話をするなど、自然発生的なグループがいくつかできていました。生徒同士の学び合いを深めたい場面ではグループの方が適していると思います。

事前の指導案の検討においてグループワークの課題については、穴埋め式のワークシートを活用することで、生徒に考えさせるポイントをかなり絞りました。課題が分かりやすくなり、取り組みやすくなって良かったと感じます。ただ、和訳などのヒントをここまで出さなくても良かったようにも思えました。

そうですね。全員に多くのヒントが最初から与えられていましたが、必要なグループにだけ、必要なヒントが伝えられる方が、生徒の考える力を伸ばすには効果的ですね。

たしかに、まず日本語文を作り、それを直訳した英単語を当てはめながら作文する方法を取っているグループが多かったですね。日本語文から考えるというヒントがあったからこそできた生徒もいますが、せっかくグループで取り組むのであれば、直訳ではない多様な表現を考えられるような、自由度の高い英作文にしても良かったかもしれませんね。

考える力は易しい課題では身に付きにくく、だからといって、難しすぎる課題では、分からないままになる生徒や始めから取り組まない生徒が出てしまいやすい……。課題の難易度やヒントの出し方が鍵になってきますね。

一人で考えるには難しい課題、だけど、グループで力を合わせて考えることで解決できるような、やや難しい課題。まずはこういった課題を設定できると良いのではないでしょうか。グループの中で、他者とかかわり合いながら試行錯誤することが、探求的思考の深まりにつながると思います。

机をしっかりくっつけて取り組んでいたグループと、向きは変えても机どうしに距離のあったグループがありました。物理的な距離があると課題に向かいにくくなり、取り組みの姿勢も変わってきてしまいます。課題の内容だけでなく、学びやすい環境を整えることも必要だと感じました。

学習活動研究会⑤　現代社会

【単元（題材）】 個人の尊重を基礎にした基本的人権　「新しい人権と公共の福祉」

【授業の流れ】

- 朝刊を見て、社会の動きに注目する。
- 前時の内容を確認し、「自己決定権」とはどういうものかを判例を見ながら考える。
- 安楽死と尊厳死の違いを理解し、新聞記事に対する自分の意見を確認する。
- グループの中で賛成意見と反対意見を出し合い、それぞれについて話し合う。
- グループでの意見交換を参考に、自分の意見を考え、死に対する「自己決定権」が成立するかどうかについて考える。

《工夫した手立て》

- 本時の目標を授業の最初に明確に伝えた。
- グループでの意見交換の際に、ワークシートや付箋を用いて、視覚的に整理できるようにした。

○生徒の学びについて

難しいテーマであったにもかかわらず、生徒はよく意見を出していました。しっかり考えているんだなと改めて分かり感心しました。

活動のルールや課題の手順、グループ内の役割などが明確に示されていたので、どのグループも見通しをもって主体的に取り組めていました。

個人で意見をまとめる時間を取った後に、グループで意見を出し合うなど、丁寧に段階が踏まれていたので、誰もが意見を言うことができ、それぞれの考えもしっかり深まったと感じます。

付箋に書き出した意見をグルーピングしてタイトルをつける時に、それぞれが付加する意見を言い合うことで、「ああ、それもあるね」「納得！」「それは気づかなかった」など、思考の広がりや深まりを見せて、とても良い学び合いが実現されているグループがありました。

グループ内で意見を共有することで、自分の意見に自信を持ったり、新たな視点を得て、自分の考えが広がったりする様子が見られました。

反対に、付箋を人に手渡すだけだったり、グルーピング作業に終始したりするグループもありました。グルーピングしながら、個々の意見をもっと聞き合って、意見交換できるグループに育てていく必要を感じます。

○学び合いを促進するための工夫について

意見交換を行うには６～７人という人数は多かったと思います。今回の授業では、付箋にも助けられて話し合いが進んでいましたが、人数が多いと意見を言いにくい生徒も出てしまうので、全員が主体的に参加して意見を言い合い、気づき合うには、４人程度が良いと感じました。

手順や役割が明確だったので取り組みがとてもスムーズでした。でも、生徒の力を考えれば、もっと任せてしまっても大丈夫だと思いました。

グループ活動に入ってからも教師の指示が続いたので、その度に活動が中断されてしまい、グループによってはもったいなく感じました。サポートが必要なグループにだけ、指示やヒントを出すのが良いですね。

ヒントについても、答えに直結するような情報を与えるのではなく、考えるための情報などを、適切に提供できると良いですね。生徒が受け身的に教わるのではなくて、自分から気づくためのサポートでありたいです。

作業が中心になってしまうと、どうしてもお互いの意見を聞く体勢にならなくなってしまうので、始めから、考えたり意見交換したりする時間を多く設定できると良いと思います。

上手に学び合えているグループの様子を、他のグループにも伝えられると、模範を示せて良いと思います。「どんなことを話し合うと深まるのか」、「どんなことに気づき合うと広がるのか」、それを自然な形で生徒自身に気づかせることができると、クラス全体の力が上がっていくのではないでしょうか。

誰の、どの意見によって、自分の意見が動かされたのか、または、動かされなかったのかなどを、自分自身が気づくことが大切だと思います。

話し合いの相互作用によって、お互いの考えがそれぞれ深まっていくのだと思います。学び合いを通して起こった「自分の中の変化」を最後に確認できると、個々の学びがさらに深まるのではないでしょうか。それによって、「学んだ実感」をより持ちやすくなるでしょう。

確認できた「自分の中の変化」を発表し合うなどして、みんなで共有できると、学び合いの意義をお互いに感じられますね。

学習活動研究会⑥　物理基礎

【単元（題材）】　熱とエネルギー　熱と熱量

【授業の流れ】

・実験装置を組み立て、温度を測定する。
・測定値を用いて、銅と鉄の比熱を算出する。
・計算結果を文献値と比較し、誤差の原因について考察する。
・各グループで話し合ったことを、ホワイトボードを用いて発表し、共有する。

《工夫した手立て》

・実験器具の操作方法や手順について、プリントに示すだけでなく、書画カメラを用いて説明するなど、視覚的に分かりやすく提示した。
・各グループにホワイトボードを配付して、協議内容を可視化し共有しやすいようにした。
・戸惑っているグループには、考えるヒントとなるような発問を加えたり、できていることを認めたりするなど、机間指導において個別にかかわった。

○生徒の学びについて

本時の流れが板書されていたので、生徒が時間を意識しながら取り組めていました。実験もプリントに示された段取りを見ながら、それぞれのグループが自分たちのペースで進められていましたね。

「説明を聞く・見る」「実験する」「計算する」「考察する」「発表する」と展開にメリハリがあったので、生徒が集中して取り組んでいたと思います。実験のためか、教室での授業とは表情が違って、いきいきとしていました。

隣の友だちのプリントをのぞき込みながら計算する生徒がいました。グループの中で立式方法を教え合ったり、「これで良いのか」と確認し合ったりしていました。学び合いの風土は、こうやってできていくのだと感じました。

一人ひとりの生徒に、それぞれのペースに合わせて、一人の教師が教えて回るより、こういった生徒同士の学び合いは価値があると思います。

友だちの書いたものを見たり、友だちのつぶやきを聞いたりしながら、自分の意見を練り直す様子が、あちこちのグループで見られました。

教師に質問する生徒もいましたが、その時に教師がヒントを与え過ぎずに、方向性は間違っていないと伝えたり、グループ内で解決できると励ましたりしたことで、生徒同士で考察を深め、答えを探り当てていくことができたのだと思います。

他のグループの発表を、みんな興味深く聞いていましたね。ホワイトボードを活用したことで、自他のグループの意見を比べやすく、共有しやすかったのだと思います。

グループごとにホワイトボードを用意したのが良かったです。書いたり消したりしながら、活発に意見交換できていて驚きました。結論だけではなくて、ホワイトボードに書きながら話し合うことで、小さな意見も拾えていました。

ホワイトボードに書いて発表することで、考察する意欲も喚起されたと思います。話し合いでも、思考の整理に役立っていたと感じます。

「え？　これ、そういう意味？」など、発問の意図に対する受け止めの差をお互いに確認したり、摺り合わせたり、間違いを修正したりと、グループ内で試行錯誤している様子がとても良かったです。

グループで力を合わせて答えを導き出そうとしていました。全員が参加できていたと思いますし、話し合うことで多面的な考察になっていました。

協力して試行錯誤していたので、達成感を感じられたと思います。人任せにしていない雰囲気がとても良かったです。メンバーの関係性が良かったのか、どのグループも意欲的でした。

○学び合いを促進するための工夫について

誤差の原因をしっかり考察するには、少し時間が足りなかったと思います。測定したり、計算したりすることは、グループ内で協力してできていたので、大事な考察こそ、十分に時間を取れると良いと思いました。

そうですね。生徒はグループで話し合うことで、自分の意見の妥当性を確認したり、新たな気づきを得て意見を修正したりできていたので、より良い考察になるように試行錯誤する、この時間をもっと取ってあげたいと感じました。

発表も関心を持って聞いていたので、他のグループの意見を聞いたあとに、それぞれが考察し直す時間があると、さらに学びが深まると思います。

１時間の中で実験・考察・発表まで設定するのが難しければ、発表して他のグループの考察を共有するのは、次の時間に回しても良いかもしれません。単元を見通して、メリハリをつけた時間設定を工夫する必要がありますね。

はじめよう学習活動研究会

～主体的に学ぶ生徒をはぐくむために～

発行　　平成 27 年３月
発行者　　林　誠之介
発行所　　神奈川県立総合教育センター（亀井野庁舎）
　　教育相談センター
　　〒２５２－０８１３
　　藤沢市亀井野２５４７－４
　　電話　０４６６－８１－８５２１
　　ホームページ　http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/